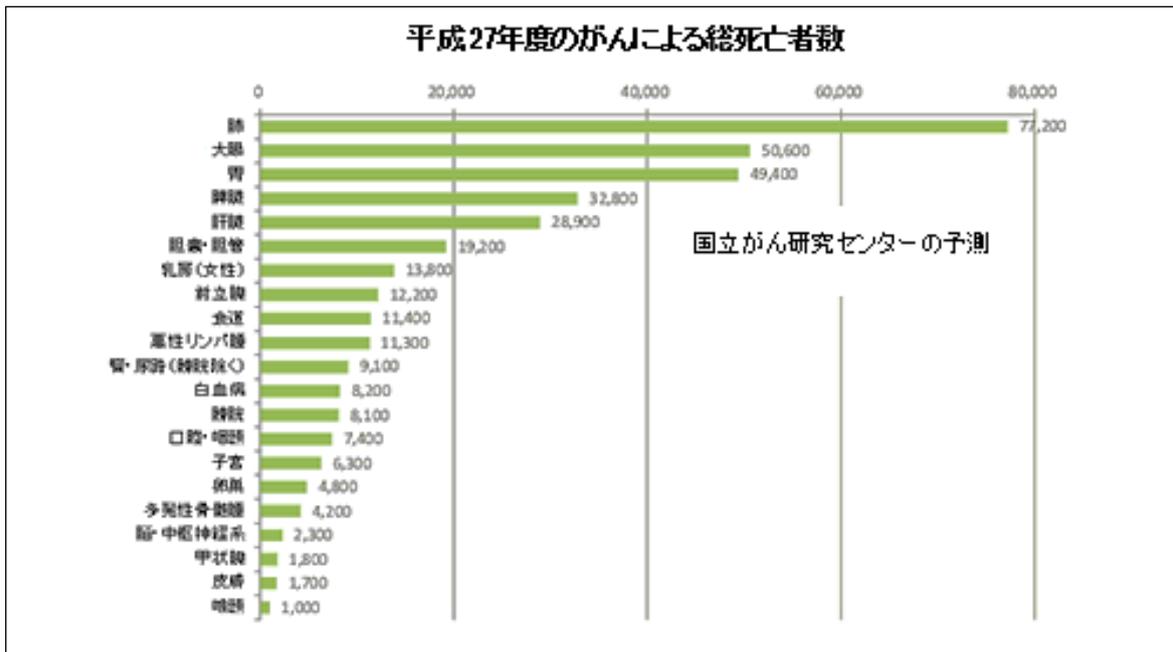


# 肺がんについて

がんは多くの病気のなかでも最も死亡率の高い病気で、日本人の死亡原因の第1位となっています。がんのなかでは肺がんの死亡が男性で第1位、女性では第2位であり、年間 77,000 人ほどの方が亡くなられています。大腸がんなどの他のがんに比べて死亡数は圧倒的に多く、肺がんの予防や早期発見が重要と考えられています。



肺がんの予防では禁煙が最も重要であります。肺がんの型（組織型分類）には腺がん、扁平上皮がん、小細胞がんなどがありますが、このなかで扁平上皮がんと小細胞がんは喫煙と因果関係の強いがんであり、発生頻度は肺がん全体の45%を占めます。喫煙は肺がんの最大の危険因子で、その危険度（がんにかかりやすさ）は喫煙者で6倍以上、1日30本以上の喫煙では10倍以上とされています。しかし、禁煙すると10年から15年で危険度は非喫煙者とほぼ同じになることから、禁煙がいかに大切であるかがわかります。また、運動することが大腸がんの予防になることは知られていますが、最近では肺がんの予防にもなる可能性が多くの研究で報告されています。少し強めの運動がよいとの意見が多いようです。さらに、果実を多く食べる人では肺がんの発生率が下がるとの欧米の大規模研究からの報告もあります。この食べ物と肺がんとの関係は興味深く週刊誌などでもとりあげられていますが、不明な点も多く今後の研究課題となっています。いずれにしましても、禁煙や運動など健康的な習

慣を身につけることが肺がんの予防には重要といえます。

肺がんになってしまった時、治療の原則は早期発見です。小さな時、例えば 1cm 程度で発見できれば手術で取ることができ多くは完治します。しかし、胸部単純写真での指摘可能な陰影の大きさは 1.5cm 前後と言われ、これより小さな陰影を見つけることは難しいとされています。一方、胸部CTでは 1cm 程度の陰影も見つけることができ、早期発見には胸部CTによる検査が有効な方法といえます。肺がんは症状が出にくく症状からの発見では進行していることの多いがんです。気になるようなことがあれば、ぜひ胸部CTを受けられることをお勧めいたします。

治療法では、まず手術でがんを完全に取り去ることが理想的です。がんが小さければ胸に小さな穴をあけて切除する手術法が多く行われるようになってきました。胸腔鏡下手術と呼ばれ、術後の痛みもほとんどなく入院期間も1週間程度で済みます。残念ながら手術ができない程に大きくなり、進行したがんであれば薬や放射線治療を行うこととなります。2000年代になり分子標的薬などの新しい薬や放射線療法が著しい進歩を遂げています。腺がん（組織型分類）は分子標的薬が効果的であることが多く治療成績は向上しています。また、ここ数年のトピックスに免疫療法もあります。いろいろなタイプの薬の登場により内科的治療は進歩しています。放射線治療ではピンポイントにがんを焼く技術が発達し、その局所制御率（がんを抑え込む率）は手術に匹敵する成績が報告されています。津山中央病院にはいりました陽子線治療装置はその代表です。

肺がんはまだ難しい病気ではありますが、禁煙、早期発見などにより津山地区での肺がんの死亡をなくしたいものです。

津山第一病院 河崎雄司



お問い合わせ：津山市健康増進課  
TEL 0868-32-2069